

全国の先進事例①（島根県）

学校を核とした官民協働による地方創生プロジェクト（一部に地方創生推進交付金を活用（H30～H32））

～地域の未来を変えるレバレッジポイントは誰も予想しなかった「学校」にある～

- 公教育の場へ多様なセクターの参入を積極的に促し、「人の流れの反転」「次代の担い手の輩出」「地域の持続可能性向上」を目指す
- 島根県内の意志ある市町村の散発的な取組を、県のリーダーシップのもと、大学や民間団体と協働し、県レベルでの取組として展開
- 全国の自治体等との共学共創により新たな地方創生モデルとして全国へスケールアウト

島根県海士町での「高校魅力化」による成果

人の流れの
反転

次代の担い手の
輩出

地域の
持続可能性向上

- ◆ 廃校寸前だった隠岐島前高校が、生徒増・学級増、全国や海外からの志願者が溢れる高校へと転換
 - * 隠岐島前高校生徒数：(H20)89人→(H29)184人
 - * 1学年1クラスから2クラスへ
- ◆ 親子での教育移住や家族連れのUターンが増加、教育分野や地域での起業に意識関心の高い有能な若者が流入
 - * 社会増減が反転：(H9～H18)▲121人→(H19～H28)＋85人

地方創生として目指す将来像

東京から地方へ、
世界から日本へ

未来を自分たちで
創る意志ある若者

課題解決先進国
NIPPONの実現

K P I

県外・海外から
県立高校への
入学者数

地域課題解決に
取り組む
大人、高校生の割合

共学共創コミュニティへの
地域・学校・行政の
チームでの参加数

県レベルでの取組として展開

【市町村】地域・学校現場での先駆的な取組の実践

- ◆ コアチームづくり
 - ・多様な主体による縦割りを排した「魅力化チーム」の創設
 - ・学校と地域をつなぐ「魅力化コーディネーター」の配置
- ◆ 地域に開かれた学校
 - ・「地域協議会」を結成、地域住民が学校経営に参加
 - ・「全国からの積極的生徒募集」（学校内の多様性確保）
- ◆ 共創的な学び
 - ・生徒が地域に出て多様な大人と共に学び、課題解決や地域づくりに安心して挑戦できる環境を創出 など

【県】広域的な取組の推進、先駆的な取組の支援

- ◆ 教育環境の整備
 - ・主幹教諭・事務スタッフの配置、遠隔授業（ICT）の環境整備
- ◆ 市町村への支援
 - ・「地域協議会」の事業費支援、「魅力化コーディネーター」の配置支援
 - ・「全国からの積極的生徒募集」の合同説明会開催
- ◆ 市町村とのパートナーシップ
 - ・各市町村に伴走者を配置し、共学共創のコミュニティを創出
- ◆ 民間活力の活用
 - ・「子どもの成長指標」「社会的インパクト評価」の開発 など

教育の分野にとどまらない多様な分野と協働し、県・市町村が一体となって展開するため、地方創生推進交付金の活用がふさわしい

全国の先進事例②（長野県）

学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル（「地方創生推進交付金」活用事業（事業期間：平成28～30年度））

- 地域が、今後の変化の激しい社会に対応していくためには、確かな力を持った人材の地域への定着が必要である。
- 「学び」によって「働き」の質を高め、「働く」ことで「学び」の必要性を認識できるような、相乗的な営みを、生涯に渡って繰り返すことのできるシステムを県内各地に形成し、地域の未来を切り拓く豊かな人材群の育成や県外からの流入を目指す。

○まずは、「学校での学び」と「地域での実践的な働き」をコーディネートする学びのシステムを構築し、産業界が求める人材の育成と、地域の魅力を活かした活躍の場の創出により、地域で活躍・成長するための基盤を形成する。

県内就職率(KPI)

各校5～10%UP
(H30年度)

専門高校生に地域と連携した本格的な学びの場を提供

コーディネーター

実践的な「学び」の場の提供

「働く」場の提供依頼
実施方法の助言

全体協議会開催
・関係者による共通認識構築
・情報交換と情報共有

高校

企業

協働による学びのシステムを構築

縦展開
H28

先駆性

専門高校の活動の仕組を普通高校にも展開

須坂高校・須坂東高校

[普通高校]
研究者・経営者等とのワークショップ
グローバルな企業展開を実地体験
⇒地域を知り地域の可能性を再発見

進学後の地元就職希望率をKPIとして設定

H28横展開
工業高校へ
(既存)

先駆性

コーディネーターを介し
高校と地元企業の協働による
学びのシステムを構築

H29横展開
農業高校へ
(新規)

H29横展開
商業高校へ
(新規)

地域へ就職

地域の専門分野へ就職

地域で起業

航空産業

飯田OIDE長姫高校
南信州地域振興局、飯田市

精密金属加工
航空部品製作

航空産業
地域企業

健康産業

松本工業高校
松本地域振興局、松本市

健康機器製造
介護補助具作製

健康産業企業
自動車産業

農業の6次産業

丸子修学館高校
上田地域振興局
上田市

高付加価値野菜
の生産と特産物化

農産物直売加工センター
地域企業・商工会 等

食品産業

下伊那農業高校
南信州地域振興局
飯田市他

食品加工
有用微生物の開発

食品加工企業
品質管理企業 等

精密加工産業

駒ヶ根工業高校
南信工科短大、駒ヶ根市

精密金属加工
生産装置制御

テクノネット駒ヶ根
地域企業

建設産業(土木)

長野工業高校
長野県建設業協会等、県建設部

測量技術
土木設計

土木関係企業
測量関係企業

建設産業(農業土木)

南安曇農業高校
(長野工業高校への展開の延長)
長野県建設業協会等、
長野県建設部

測量技術
土木設計

土木関係企業
測量関係企業 等

[商業高校]
デパートサミット

活動前と活動後の起業希望者
増加率をKPIとして設定

全国の先進事例③（長野県飯田市）

○飯田OIDE長姫高校（県立）と飯田市（公民館）と松本大学の3者がパートナーシップ協定を締結し、高校生が地域課題を主体的に考える「地域人教育」の実施を支援。

地域人教育とは

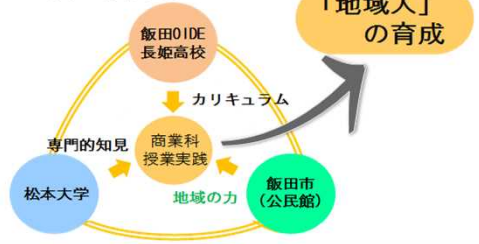
地域人 地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材

平成24年度に飯田OIDE長姫高校・松本大学・飯田市の3者によるパートナーシップ協定を締結

地域人教育の目的（飯田OIDE長姫高等学校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定より）

- ①地域人教育を通して、結ぶ力を学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動できる地域を担う人材を育成する。
- ②10年後を見据え、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。

パートナーシップ協定のイメージ



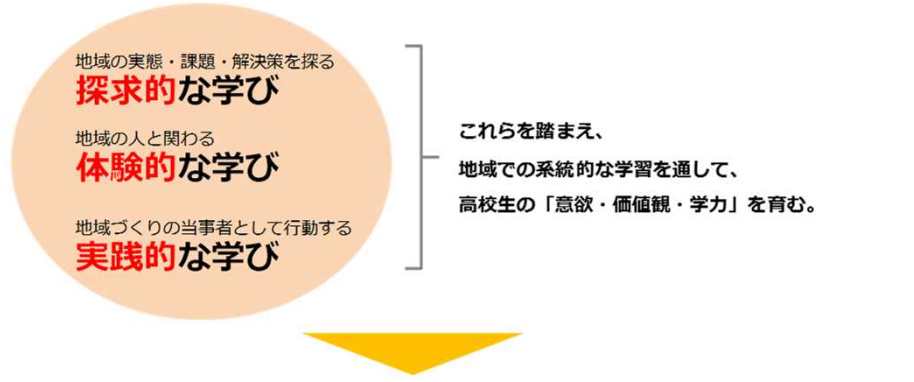
事業展開

- 1年生 ビジネス基礎**
「地域を知る・地域の見方を学ぶ」
- 2年生 広報と販売促進**
「地域と関わる・地域に参加する」
- 3年生 課題研究**
「これまでの学びを活かした地域への主体的参加体験」

地域人教育の仕組み



地域人教育のポイント



自らの人生を切り開いていく力をつけるとともに、
地域に心の根を置き、誇りをもつことのできる人材が育つ。

地域人教育のカリキュラム

学年	科目	学習内容
1学年	【基礎】 ビジネス基礎 (3単位・105h)	* 講義・演習 外部講師による講義 フィールドスタディ（松本市、飯田市、東京都）
2学年	【応用】 商業実務 (2単位・70h)	* 地域でのイベントの運営サポート “りんご並木まちづくりネットワーク”に参加 年間6回程度イベントの運営サポート インターンシップを連携企業で実施
3学年	【実践】 課題研究 (3単位・105h) 金曜日4～6時間目	* 地域づくり・課題解決への取り組み 地域商品開発・販売 イベント企画、運営 地域課題の取り組み（公民館との連携）

地域人教育（3年生）の授業プロセス



学びを深める要素

- ① 素敵な生き方をしている人との出会い
- ② 「仲間」の存在
- ③ 必要とされる「自己有用感」
- ④ 考えを整理して伝える機会